

令和2年度 事業報告

社会福祉法人
県西福社会

令和2年度 事業報告（前文）

令和2年度を振り返って

令和元年度の事業報告の末尾で世界恐慌となっている「新型コロナ」問題にはすべてに優先した対策を講じ、感染防止に万全を期す、旨を記しましたが、予測通り、令和2年度は「コロナ」から逃れることができないまま、かつて経験したことのない状況下での法人と施設の運営となりました。

私共は、政府ならびに神奈川県が示した「施設の運営を継続することが利用者の生活の安定に不可欠」との方針に則し、これまでと変わりなく活動に取り組んでまいりましたが、感染防止対策—ボランティア活動の休止、家族の面会の制限、利用者の外出制限等等—は、施設の様相を一変させ、利用者には制約の多い日々を強いることになりました。

先の見えない「新型コロナウイルス感染症」から利用者を守る予防対策を講じながらの施設運営が、しばらく続くこととなります。

なお、事業の展開局面では、新たな井戸掘削による給水設備の工事が完了し、将来にわたって生活用水を確保することが出来ました。

社会福祉法人県西福祉会
理事長 松本信輔

◆◇◆ 目 次 ◇◇◆

経営方針	
足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要	... 1
1. 理事会・評議員会	... 2
2. 主要行事	... 3
3. 組織体制	... 4
4. 職員状況	... 5~7
5. 足柄療護園の状況	... 8~11
6. 県西福祉センターの状況	... 12~13
7. プレアデスの状況	... 14~16
8. プレアデスホームの状況	... 16
9. ふくらんの販売状況	... 17
10. ボランティア活動の状況	... 18
11. 健康管理の状況	... 19
12. 給食の状況	... 20
13. 権利擁護の状況	... 21
14. 安全管理の状況	... 22
15. コミュニティ(地域交流)の状況	... 23
16. 広報の状況	... 23
17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他	... 24
18. 施設整備	... 24
令和2年度 部門別重点実施事項実施報告	... 25~26

※文中の表現

- ・新型コロナウイルス = コロナウイルス
- ・コロナウイルス感染予防対策 = 感染対策

★経営方針

《 使命 》 職員的情熱と地域社会の支持によって
利用者安心の施設を目指します

《 基本理念 》

私達は、自らの使命を認識しながら、そこに辿り着くため、施設運営に当たっては、その基本理念を**自主・参加・安心**と定めます。私達の施設は、集団生活を避けることはできませんが、集団生活の故に発生しがちな「管理」、「画一」、「指示」、「規制」を極力、排し、利用者個々人の「自主性、主体性」を尊重し、当事者としての「参加」と「決定」を大切にしながら、家族ともども「安心感」のもてる生活の場を築きます。

自主・参加・安心

《 長期目標 》

利用者満足の実現

福祉プロ集団への進化

地域福祉の活性化

★足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要

令和3年4月1日現在

足柄療護園 (障害者支援施設)	県西福祉センター (障害者通所施設)	プレアデス (障害者通所施設)	プレアデスホーム (障害者グループホーム)
施設入所支援 60名	生活介護 30名	生活介護 15名	共同生活援助 32名
生活介護 60名	機能訓練 6名	就労B型 30名	
短期入所 6名	就労B型 15名	日中一時 15名	
	相談支援	相談支援	

◆ 沿革 ◆

平成11年 8月	社会福祉法人県西福祉会 法人認可
平成13年 4月	身体障害者療護施設足柄療護園 開設 身体障害者デイサービス県西福祉会センター 開設
平成18年10月	生活介護事業・相談支援事業 開始
平成19年 4月	自立訓練(機能訓練)事業 開始
平成20年 4月	障害者支援施設(生活介護)へ事業移行
平成20年 7月	就労継続支援B型事業 開始
平成22年 4月	プレアデス(生活介護・就労B・共同生活援助)事業開始 プレアデス日中一時事業(小田原市・南足柄市)事業開始
平成24年 4月	県西福祉センター生活介護棟開設 / プレアデス福泉事業所開設
平成25年 4月	プレアデス福泉 製造棟開設
平成25年 7月	プレアデス福泉「ふくらん」開設
平成26年 4月	プレアデスホーム やまさきホーム「シリウス」「リゲル」開設
平成27年 3月	プレアデスホーム やまさきホーム「カペラ」「スピカ」開設

1. 理事会・評議員会

(1) 理事会

第1回	5月22日	第1号議案 令和元年度事業報告(案)について 第2号議案 令和元年度決算報告(案)について 第3号議案 足柄療護園給水設備工事の変更(案)について 第4号議案 令和2年度補正予算(案)について 第5号議案 プレアデスホーム運営規程の改正(案)について 第6号議案 令和2年度第1回評議員会の開催(案)について	全員出席
第2回	10月23日	第1号議案 令和2年度 事業中間報告(案)について 第2号議案 令和2年度 資金収支中間報告(案)について 第3号議案 プレアデス(生活介護)新棟建設(案)について 第4号議案 令和2年度第2回評議員会の開催(案)について	理事 欠席1名
第3回	3月12日	第1号議案 令和2年度 資金収支2次補正予算(案)について 第2号議案 令和3年度 事業計画(案)について 第3号議案 令和3年度 資金収支予算(案)について 第4号議案 諸規程の改正(案)について 第5号議案 令和3年度 基盤整備小委員会の設置(案)について 第6号議案 次期評議員の候補者推薦(案)について 第7号議案 評議員選任・解任委員会の開催(案)について 第8号議案 次期評議員評議員選任・解任委員の選任(案)について 第9号議案 令和2年度 第3回評議員会の開催(案)について	全員出席

(2) 評議員会

第1回	6月12日	第1号議案 令和元年度決算報告(案)について ① 令和元年度事業報告について ② 足柄療護園給水設備工事の変更について ③ 令和2年度補正予算について ④ プレアデスホーム運営規程の改正について	全員出席
第2回	11月6日	① 令和2年度 事業中間報告について ② 令和2年度 資金収支中間報告について ③ プレアデス(生活介護)新棟建設について	評議員 欠席1名
第3回	3月26日	① 令和2年度 資金収支2次補正予算について ② 令和3年度 事業計画について ③ 令和3年度 資金収支予算について ④ 諸規程の改正について ⑤ 令和3年度 基盤整備小委員会の設置について	全員出席

(3) 基盤整備小委員会 (生沼理事・柴田理事・守屋理事・小澤評議員)

第1回	5月20日	足柄療護園給水設備整備工事仕様変更に係る打ち合わせ
第2回	7月9日	プレアデス新棟建設に係る打ち合わせ
第3回	7月21日	プレアデス新棟建設に係る打ち合わせ
第4回	7月27日	プレアデス新棟建設に係る打ち合わせ
第5回	8月24日	プレアデス新棟建設に係る打ち合わせ
第6回	1月29日	足柄療護園給水設備整備工事地鎮祭の打ち合わせ
第7回	2月16日	足柄療護園給水設備整備工事地鎮祭実施
第8回	3月12日	足柄療護園給水設備整備完成検査(最終)

2. 主要行事

月	施設行事	法人・職員	地域・家族 他
4	避難訓練【プ】 花見【プ】	モンゴル技能実習生面接 (リモート)	
5		健康診断〔夜勤者〕【足】 監事監査 理事会 基盤整備小委員会	家族会総会〔書面開催〕
6	プレアデス祭→中止 避難訓練【足&セ】	プレアデス祭→中止 評議員会 避難訓練【足&セ】	プレアデス祭→中止
7	スポーツ大会【足】 七夕行事【足】【プ】【ホ】 歯科検診【足】 避難訓練【ホ】	「ふくらん」7周年 基盤整備小委員会 避難訓練【ホ】	北里大学実習生
8		職員会議 基盤整備小委員会	鎌倉女子短期大学実習生 小田原短期大学実習生
9	納涼会【足】 避難訓練【足&セ】【ホ】 カラオケ大会【足】	避難訓練【足&セ】【ホ】	
10	秋まつり→中止 ミニ秋まつり 作品コンテスト スポーツ大会【足】 避難訓練【プ】 ハイキング【プ】	秋まつり→中止 理事会 避難訓練【プ】	秋まつり→中止
11	インフルエンザ予防接種【足・ホ】 焼き芋会【足】 カラオケ大会【足】 避難訓練【ホ】 利用者研修会【プ】	評議員会 評価面接 職員健康診断【職員】 避難訓練【ホ】	
12	クリスマス会【足】【セ】【プ】 仕事納め【セ】 カラオケ大会【足】	避難訓練【足&セ】	大掃除【ホ】
1	新春イベント【足】 健康診断【足・プ】 書初め【セ】	基盤整備小委員会	
2	節分行事【セ】 スポーツ大会【足】 バレンタインイベント【足】	基盤整備小委員会	ちいきふくし博WEB【足&セ&プ】
3	カラオケ大会【足】 自分発表会【プ】 夜間想定避難訓練【足】	職員会議 理事会・評議員会 避難訓練【足】 基盤整備小委員会	

3. 組織体制

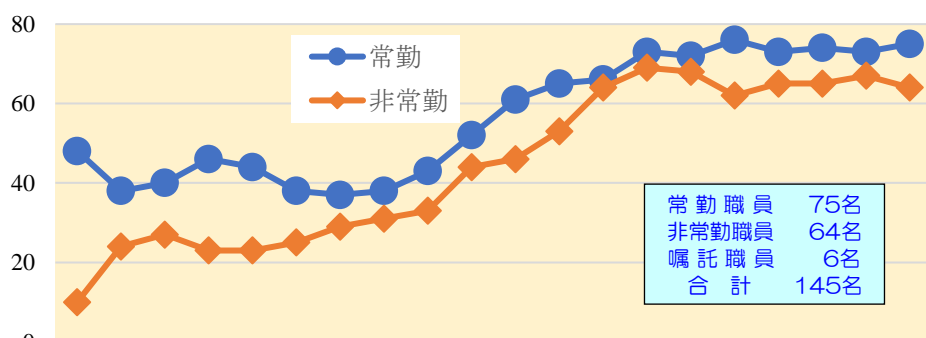
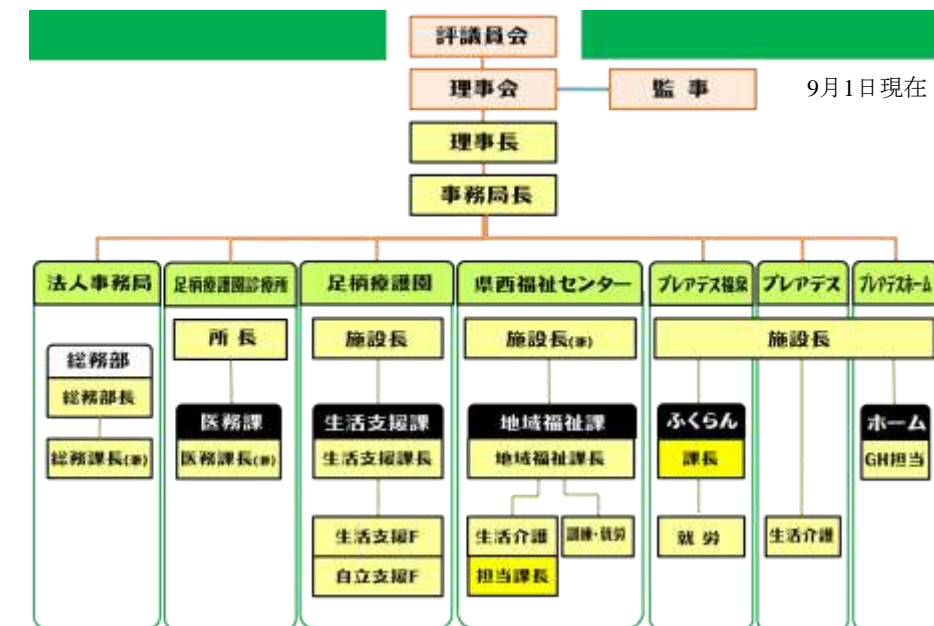
(1) 組織体制

9月1日より、県西福祉センターに生活介護担当課長を配置した。また、プレアデスでは、各事業ごとに体制を整備し、プレアデス福泉はふくらんを中心軸に据え課長を配置した。

(2) 職員数

常勤職員の退職者は2名と少なく、年度末の職員総数は145名であった。同4名の採用のうち、3名が人材紹介による。

年度末に定年による退職者が2名発生し、うち1名は雇用継続で引き続き非常勤勤務を希望した。



H13H14H15H16H17H18H19H20H21H22H23H24H25H26H27H28H29H30 R1 R2

職員数の推移(3月31日現在の職員数)

(3) 職員配置

3月31日現在の各事業の配置職員は、指定基準を満たしている。

職種	足柄療護園		県西福祉センター		プレアデス		プレアデスホーム	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1名		1名		1名		1名	
サビ管	1名		1名		1名		2名(兼務)	
医師		6名		1名(兼務)		1名(兼務)		
看護師	2名	11名	1名(兼務)			1名(兼務)		
生活支援員	28名	8名	9名	7名	20名(兼務)	9名	15名(兼務)	1名(兼務)
指導員			1名		1名			
訓練担当	1名(兼務)	3名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)			
世話人							13名(兼務)	14名
その他	4名	7名		3名				

3月31日現在

4. 職員状況

(1) 労働条件の改定等

7月に1及び2等級の常勤職員及び非常勤職員の昇給を実施した。また、10月には最低賃金改定にかかわる対応を行った。

労働法規の改正に基づき、「育児・介護休業休暇」に係る就業規則等の改正やハラスメント防止に係る「ハラスメント防止規程」の制定を行った。

(2) 職員研修

コロナウイルスの影響で、研修日程を延期するなど感染対策を行いつつ、計画に沿って階層別に施設内研修を実施した。全体研修の感染症研修は感染症.comの向田氏を講師に招き、コロナウイルスの最新情報も含めた基礎的な知識習得を行った。足柄ふれあいセミナー、新任職員サービス力向上ディズニー研修は中止とした。



感染症専門家による研修

①施設内研修実施状況

職員研修	テーマ	講師	対象者	参加者
6月19日	嚙下と食事介助	猪川言語聴覚士	新人	8
6月24日	防災研修	山岸施設長	全体	6
8月19日	成年後見制度	和田明子社会福祉士	全体	29
9月18日	基本的なオムツのあて方	日本製紙クレシア(株)	新人	17
11月27日	感染症研修	感染症.com 向田氏	全体	36
12月23日	救命救急	小田原消防	全体	17
12月29日	事例検討	平田施設長	中堅	29
1月29日	支援とは何か?	西川・石井支援員	中堅	19
3月17日	権利擁護(あおぞらプラン)	平田施設長	全体	41

②スキルアップ研修実施状況(業務時間扱い・自由参加型)

日程	テーマ	講師	参加者
10月29日	腰痛予防	大野理学療法士	16
2月19日	盲ろう体験	猪川言語聴覚士	15
3月26日	意思疎通研修	猪川言語聴覚士	16

③施設外自己啓発(SDS)

自己啓発制度を活用し、日本高次脳機能障害学会や介護職員初任者研修への参加に対し、受講料の補助や交通費の支援を行った。

④施設外研修受講状況(9企画延べ18名参加)

内容	参加者	主催
サービス管理責任者等研修 更新研修	山岸直広・平田智徳・行待巧	神奈川県
相談支援従事者 現任研修	川西貴久	神奈川県
相談支援従事者 プレ・初任者研修	府川晴紀・鈴木匠	神奈川県
新任福祉・介護施設等職員合同研修会	安武伴広・田淵一人・笹尾真	神奈川県
介護に関する入門的研修:基礎講座	石井大資・中舘玲香・鍵和田美絵子	神奈川県社協
喀痰吸引等研修(第三号・全過程)	石井大資・中舘玲香・鍵和田美絵子	フュージョンコム
水道技術管理者資格取得講習会	田中至	日本水道協会
全国身体障害者施設協議会経営セミナー	柴田和生	全国身障協

※コロナウイルスの影響で開催等が中止になった研修も多かった。

(3) 会議・委員会

感染対策を徹底しつつ、感染状況に応じては開催の延期や中止を判断し会議を開催した。オンライン等を活用した参加も取り入れた。各委員会の活動を通じ、リーダーシップの発揮をはじめとした、職員の能力開発と組織運営への参加をはかった。

名称	内容	開催数	メンバー
職員会議	施設運営及び職員に係る事項について提起し、職員間の意思疎通をはかる	2回	全職員
運営会議	施設運営及び職員に係る事項について検討し、組織の一体化を推進する	5回	理事長、柴田、田中、山岸、平田、行待、佐々木、大賀、根本
わくいき委員会 (日中活動)	クラブ活動や施設外活動、イベント等の企画・検討を通じ、充実した生活の実現を目指す	4回	◎西川、阿部、柘植、岸、金子、武藤、石井、神羽、(山口、良知)
さくさく委員会 (業務改善)	業務の効率化を実現し、職員の負担を軽減し、より充実した利用者支援につなげる	3回	◎迫田、府川、持丸、加藤、真田、阿部(達)(石川、山口、良知)
権利擁護委員会	成年後見制度利用状況の把握、身体拘束の把握、虐待が疑われるケースの検証等を行う。	3回	◎山岸、柴田、平田、石川、佐々木、山口、良知、増田
リスクマネジメント 委員会	利用者が生活を送る上での安全安心確保と事故の防止をはかる。各種マニュアルの整備。	4回	◎持丸、宮崎、鈴木、金子、迫田、増田、石川、佐々木、赤池、古屋、(山岸、平田)
ボランティア 委員会	ボランティアの誘致、受入れ及び対応にかかわることについて検討する	2回	◎加藤、山岸(里)、神羽、武藤、安武、阿部(達)、七海、月村、大熊
研修委員会	職員の研修にかかわること、研修会の企画・開催について検討する	3回	◎森本、宮崎、藤田、丹羽、石井、安武、櫻井、松本、土屋
衛生委員会	労働災害及び疾病の防止対策を行い、快適な作業環境の実現を促進する	6回	◎田中、野村Dr.、森本、西川、鈴木(眞)、根本NS、(山岸)
広報委員会	広報誌『やまぶさ』の編集・発行を行う。広報にかかわることについて検討する	5回	◎奈良場、岩田、鈴木(眞)、猪川、五味、鈴木(直)、秋山、
短期入所受入 検討会議	短期入所利用者情報の共有と受入にかかわる業務等の調整を行う	11回	◎増田、山岸(直)、石川、山口、良知、五味、NS、(佐々木)
食のあり方 検討委員会	ソフト食の提供にかかわる課題の整理や食事観察の必要な方の支援を行う	4回	◎猪川、石川、山口、良知、市沢、戸張、西山NS、(山岸、平田、佐々木)、日清医療食品

(4) 労働衛生

5月に予定していた健康診断は延期して11月16日に職員119名に対し健康診断を実施し、所見のある職員が89名(医師の指示50名)おり、医師診断をすすめた。夜勤従事者は5月～6月に嘱託医師による健康診断を実施した。また、健康保険加入職員65名に対してストレスチェックを実施した。衛生委員会において、施設内の巡回チェックシートにより職員労働環境の定期確認を実施した。

(5) 委員会活動報告

委員会名	委員長	実施報告
わくいき (日中活動) 委員会	西川 	季節のイベントとしてクリスマス会を企画開催した。また、食のイベントのわんこそうめんや焼き芋会、新春イベントとしていちごあめ作りなどを行った。施設外活動が中止となり、3月に施設の桜の鑑賞会を企画した。ぶらりランチはコロナウイルスの影響で中止となった。「ふくらん」商品の販売は定着してきた。
さくさく (業務改善) 委員会	藤田 	モンゴル人技能実習生受入れに向け、実際に受入れている施設見学を行い生の声を聴くことができた。また業務マニュアルの作成をすすめた。ナースコールシステムの経年劣化に伴う更新を見込み、メーカーによる環境確認や機種種の検討に着手した。買い物代行について、増加した買い物に対応できるよう日程変更を行った。
リスク マネジメント 委員会	迫田 	リスクマネジメント報告やヒヤットと共有書の内容について共有と対策の検討を中心に会議を行った。リスクマネジメント報告書式の記載マニュアルの見直しに着手した。利用者の緊急連絡先データの見直しを行った。BCP(事業継続計画)の検討については、行うことができなかった。
権利擁護 委員会	山岸 	身体拘束解除に向けた検討を行い、6名について解除することができた。また、転落防止を目的とした胴体ベルト解除に向けた取り組みもすすめた。成年後見制度について職員研修を実施し制度理解を深めた。状況把握と制度利用の促進を行ったが、新たな利用へはつながらなかった。12月に職員人権チェックを実施し、結果について職員に周知した。
ボランティア 委員会	加藤 	ボランティア活動数、延べ1400名を目指したものの、感染対策からほぼ1年を通じてボランティアの受入れを中止したことにより、緊急事態宣言解除後の一時に受入れた69名にとどまった。リモートでのボランティア活動について検討し、年度末には実現できた。ボランティア食事は開催を中止した。
研修委員会	丹羽 	コロナウイルスの影響で、研修の延期などスケジュール調整に苦慮したが、おおむね計画通りに研修を開催することができた。コロナウイルスの内容も含めた「感染症研修」やあおぞらプランをテーマにした「権利擁護研修」など、関心の高い研修テーマには参加者が多かった。職員講師の研修を企画し実施した。
衛生委員会	田中 	緊急事態宣言や神奈川アラートにより、会議開催は年6回となった。2回の定期巡回を実施し、職場環境改善に向け修繕が必要な物について修理依頼をおこなった。休憩室の開放を検討したが、コロナウイルスの影響により、三密を避けること等を考慮し、次年度へ引き継いだ。
広報委員会	奈良場 	『やまぶき』の発行計画を一部変更したが、計画通り年3回発行した。面会制限や施設見学、ボランティア活動が中止となる中での活動や生活の様子、感染対策の現状などを紹介することにつとめた。やまぶき75号では、言語聴覚士にスポットを当てテーマを絞り紹介を行った。今年度の写真販売は中止した。

委員会活動報告

5. 足柄療護園の状況

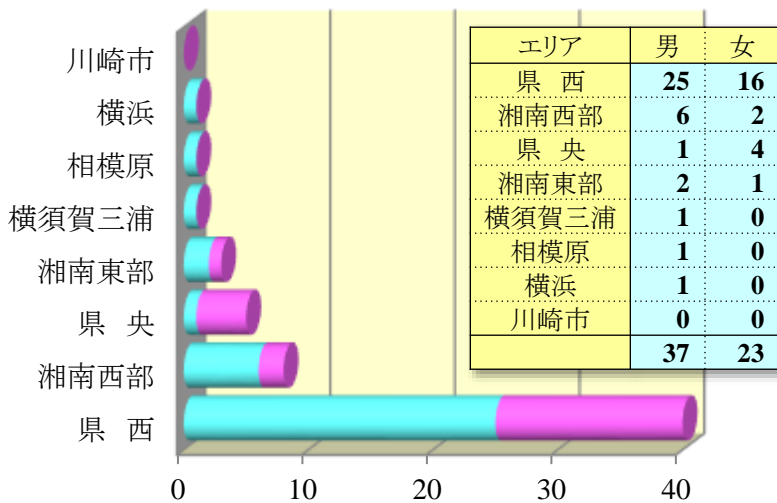
(1) 施設入所支援

58名でスタートし3月末では満床となる。4名が急変により入院し亡くなり、1名が医療面での長期入院が必要となり退所となった。7名が新たに入所となり、入退所の多い年となった。

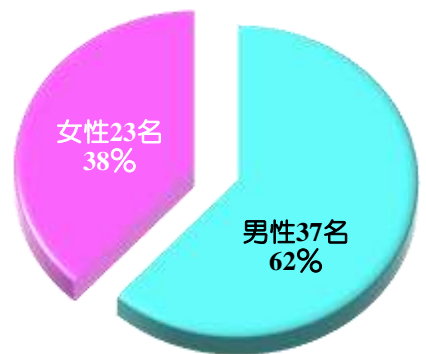
感染対策から、外出・外泊の制限や日中活動の変更などを行った。外部との接点を減らす視点で、入館や面会の制限を行った。また、感染発生時の備えとして必要物品の確保した。

① 利用者の状況 (年度末現在;入所者数60名)

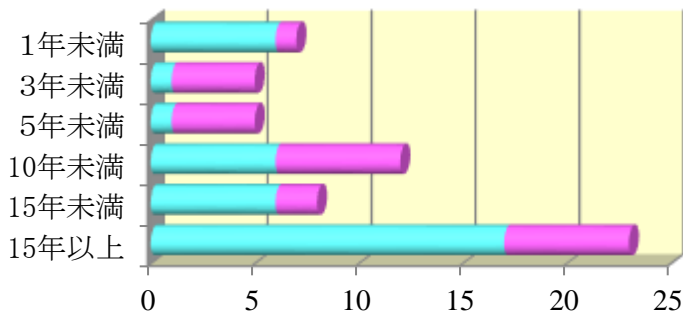
A.地域別入所者数:県西地区が41名(68.3%)を占める。



男性が37名(61.6%)。

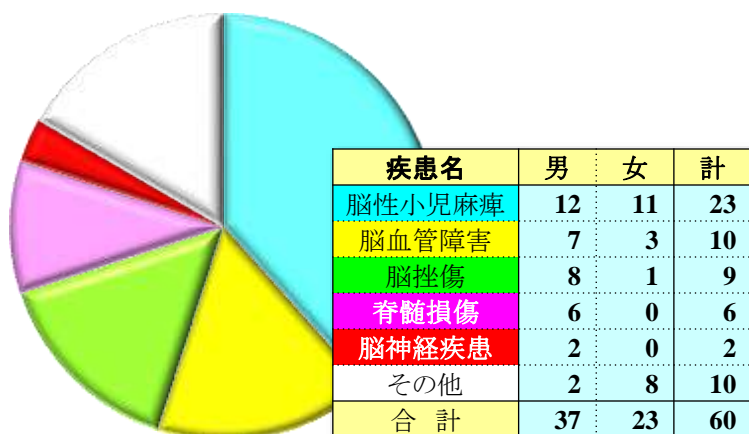


B.在所期間:10年を超えた方は31名で52%。



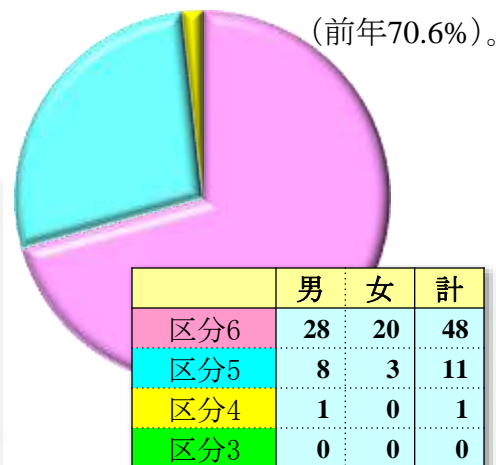
	男	女	計
1年未満	6	1	7
3年未満	1	4	5
5年未満	1	4	5
10年未満	6	6	12
15年未満	6	2	8
15年以上	17	6	23

C.疾患別原因:脳性マヒの方が34%を占める。

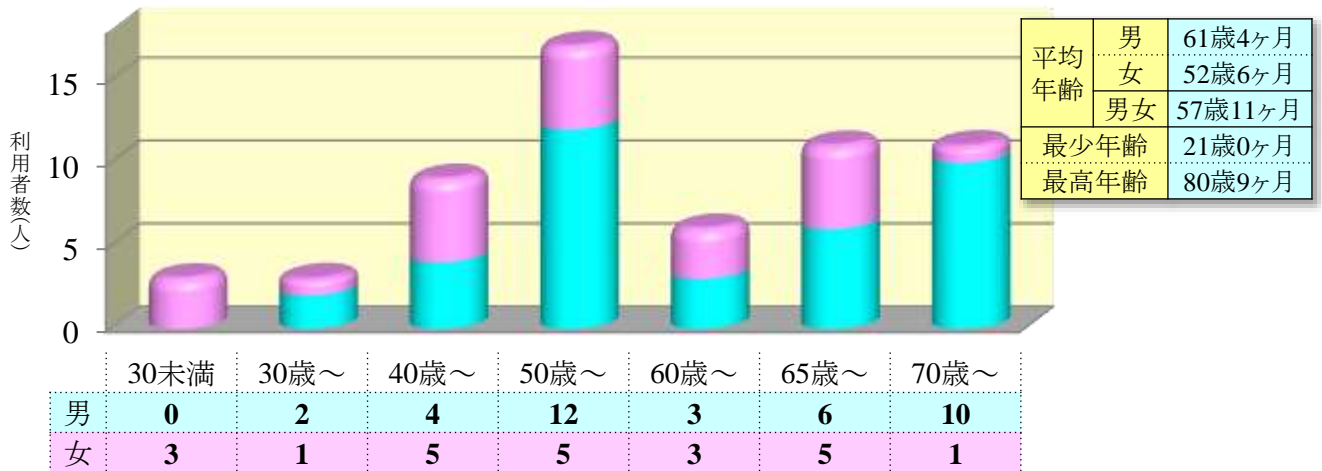


D.障害支援区分:区分6 が80.0%

(前年70.6%)。



E.年齢別：平均年齢は57歳。70歳以上は11名。

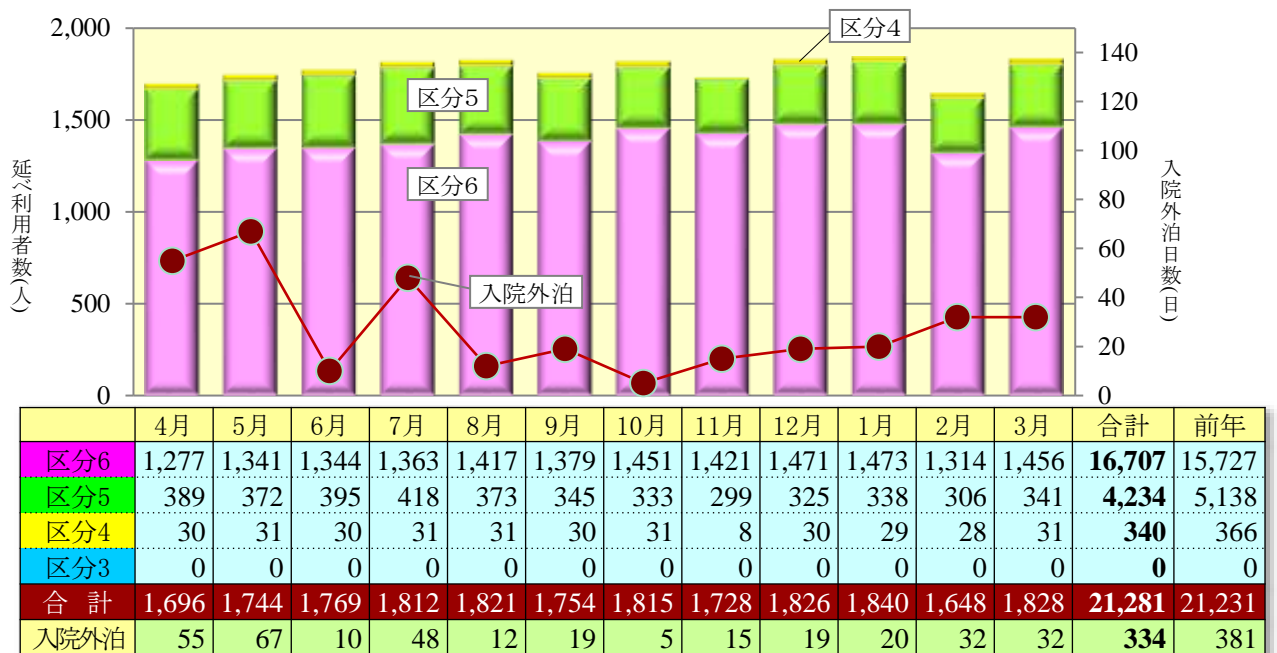


②個別支援

個別支援作成会議等の参加者を限定することで、より効率的な会議運営を行った。外出などできない中でも、お一人お一人に合わせた個別支援計画を策定し、担当支援員等が中心となってその人らしい生活となるように支援を行うことに努めた。ICT導入モデル事業補助金を活用し、ipadを活用した会議を検討し、効率化、ペーパーレス化をはかった。

③利用状況

年間5名の退所はあったものの満床を維持できるように動いた結果、延べ利用人数は前年を若干上回ることができた。外泊については感染対策で自粛をお願いしたため例年に比べ少なかったが、入院日数が多く、入院外泊数は前年並みであった。障害支援区分6の方が1,000日程度増加した。



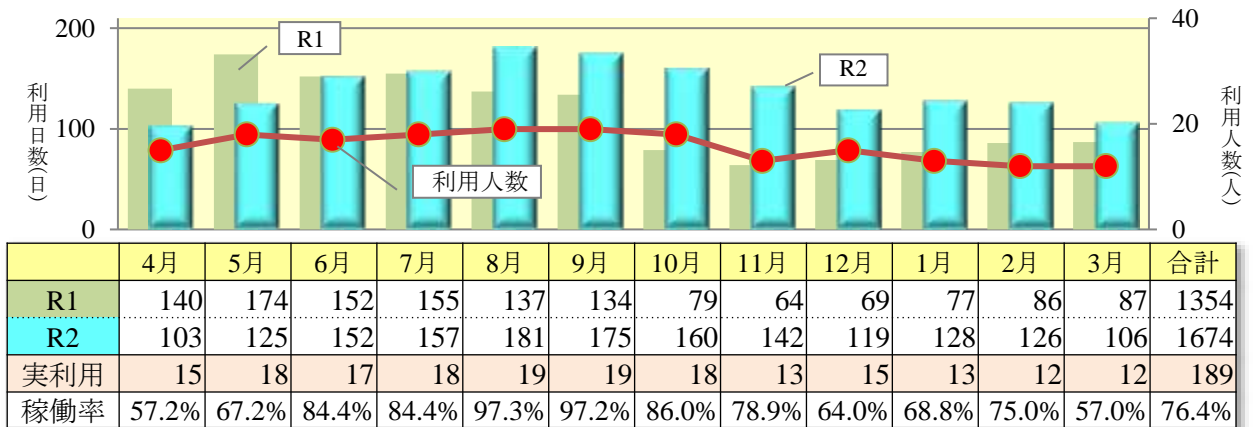
(2) 短期入所の状況 定員6名

登録者34名(前年44名)に対し、実利用28名(前年38名)年間延べ**1,674日**(前年1,354日)のサービス提供を行い、**平均ベッド稼働率は76.4%(前年61.7%)**であった。短期入所利用から入所利用に切り替わるケースが4件(足柄療護園3件、他施設1件)あった。

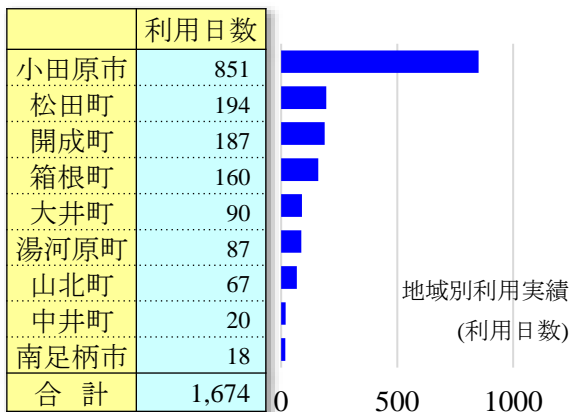
感染対策から原則居室での対応とし、居室配膳やクラブ活動へ参加制限などについて了承を得ながらの利用となった。利用予約後に、緊急事態宣言や神奈川アラートの発出で感染を懸念されキャンセルされるケースも発生した。

①利用者の状況(3.31現在)

A. 利用実績: ベッド稼働率は**76.4%**(前年61.7%)で、延べ利用日数は**1,674日**であった。

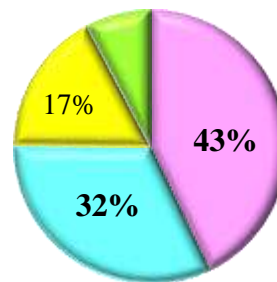


B. 域別利用状況: 小田原市が半数を占める。



C. 障害支援区分別

区分5と6で約75%を占める
平均障害支援区分は5.17
(前年5.31)



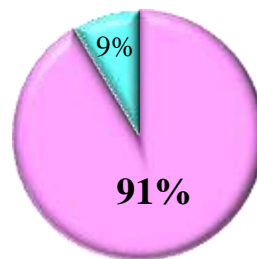
	日数
区分6	718
区分5	540
区分4	286
区分3	130
区分2	0

障害支援区分(利用日数)

②地域拠点事業所配置事業の状況

地域拠点事業所配置事業「あんしんネット」の補助事業は11年目となり、**27名**(前年26名)の登録、実利用8名の方に対し延べ**136名635日**(前年158名725日)のサービス提供を行った。

また、県からの受託事業である「地域ネットワーク強化事業」において、圏域の関係機関との会議や研修機会を通じ連携強化をはかった。



	日数
区分6	580
区分5	55
区分4	0
区分3	0
区分2	0

障害支援区分(利用日数)
※上記内数

(3) 活動支援の状況

① クラブ活動等

ボランティアの協力を得ながら実施しているクラブ活動は、感染対策からボランティアの受入れを中止したことや1階と2階の居住者さんの交流を最小限にとどめたことで、その内容や支援方法を大きく変更せざるを得ない状況となった。活動をしぼり、少人数で参加できるように開催数を増やして実施し、日中活動の充実をはかった。

クラブ名	回数	参加	平均
カラオケクラブ	61	1,398	22.9
卓上クラブ	34	411	12.1
スポーツクラブ	23	381	16.6
パソコン	45	289	6.4
創作クラブ	27	220	8.1
園芸	2	6	3.0
ローリングハレー	0	0	
華道クラブ	0	0	
カーレット	0	0	
音楽同好会	0	0	
陶芸クラブ	0	0	
合計	192	2,705	14.1

クラブ活動等の実績及び各大会実績

カラオケ大会	
9月16日	参加11名/観客24名
11月19日	参加10名/観客25名
12月17日	参加11名/観客23名
3月11日	参加12名/観客30名
卓上ゲーム大会	
実施せず	
スポーツ大会	
7月16日	ボーリング 参加25名
7月30日	ボーリング 参加15名
10月14日	運動会 参加27名
10月22日	運動会 参加21名
2月11日	ボッチャ 参加20名
2月3日	ボッチャ 参加21名
作品コンテスト	
10月7日	応募数109作品
～13日	73名の投票により選考



② イベント・余暇活動（アクティビティ）

法人全体で取り組む「秋まつり」は、感染対策から中止となったが、居住者にとって楽しいイベントであることから、足柄療護園居住者のみで演奏や屋上での食事を楽しむ「ミニ秋まつり」として開催した。ミニ秋まつりを含め季節ごとのイベントは、わくいき委員会を中心に、8企画を開催し、参加者は378名であった。

消毒や換気など感染対策を徹底するとともに、1階と2階の入替制や密にならない工夫をしながら開催した。

月	イベント	参加数
8月	わんこそうめん	49
9月	花火大会	54
10月	ミニ秋まつり	51
11月	焼き芋会	54
12月	クリスマス会	40
1月	いちご飴づくり	44
2月	パンケーキづくり	46
3月	施設の桜でお花見	40

③ その他の活動

買物外出・施設外活動：年間を通して中止

施設外大会・発表会への参加：年間を通して中止

“ぶらり外出” “ぶらりランチ”：年間を通して中止

飲酒・喫煙：年間を通して中止



ミニ秋まつり

6. 県西福祉センター(生活介護・自立訓練・就労継続・相談)の状況

登録者数は77名で前年(78名)並みではあったが、9,700名を目標に掲げた利用人数は、コロナウイルスの影響から利用を自粛する方もおり、前年を5.3%下回り**8,144名**(前年8,602名)、1日平均は**26.4名**(前年度28.5名)であった。感染対策により、毎月実施していた3事業交流の「食のイベント」の中止や訓練での事業所間移動を制限した。また、送迎時車両乗車前の検温の実施、訓練機器や手すり等の消毒、毎日の車両の消毒など感染症対策に努めた。

【生活介護事業】

❖ 延べ利用人数は16.4%減の**3,365名**(前年度4,028名)となり、1日平均**11.1名**(前年度13.3名)であった。入退所状況は、新規利用者4名、退所者11名であった。

【機能訓練事業】

❖ 延べ利用人数は9.0%減の**1,021名**(前年度1,123名)となり、1日平均**3.4名**(前年度3.7名)であった。入退所状況は、新規利用者2名、退所者3名であった。

【就労継続支援B型事業】

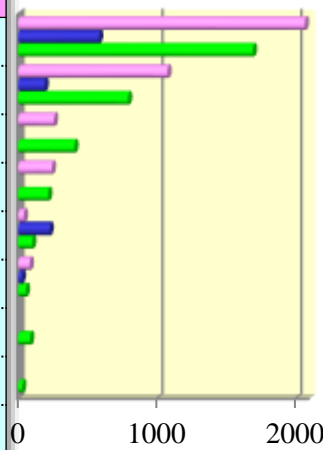
❖ 延べ利用人数は8.9%増の**3,758名**(前年度3,451名)となり、1日平均**12.4名**(前年度11.4名)であった。入退所状況は、新規利用者4名、退所者3名であった。

(1) 利用者の状況(3.31現在) 定員(生活介護30名/自立訓練6名/就労継続15名)

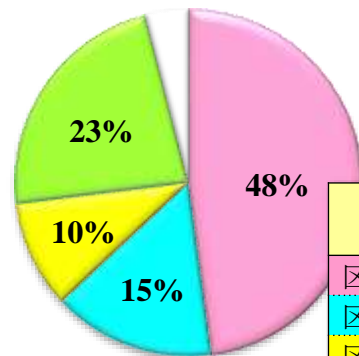
①地域別利用者延べ数(小田原市53%、南足柄市25%)

②生活介護利用者障害支援区分

	生活 介護	自立 訓練	就労 継続
小田原市	1,689	581	2,063
南足柄市	790	189	1,074
山北町	404		257
中井町	215		242
大井町	100	226	40
開成町	54	25	82
湯河原町	85		
箱根町	28		
合計	3,365	1,021	3,758

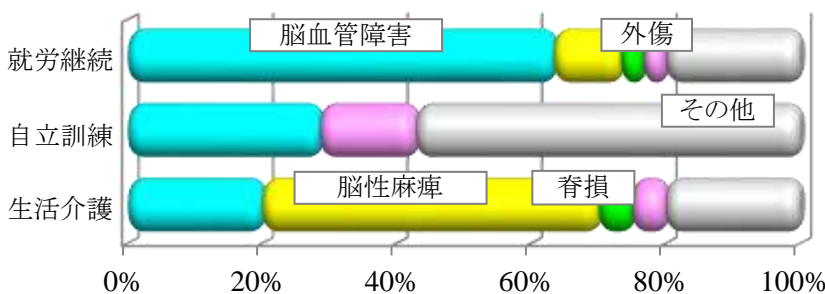


平均障害支援区分 **4.8**(前年4.8)



区分	利用 人数
区分6	1,611
区分5	509
区分4	337
区分3	774
区分2	134

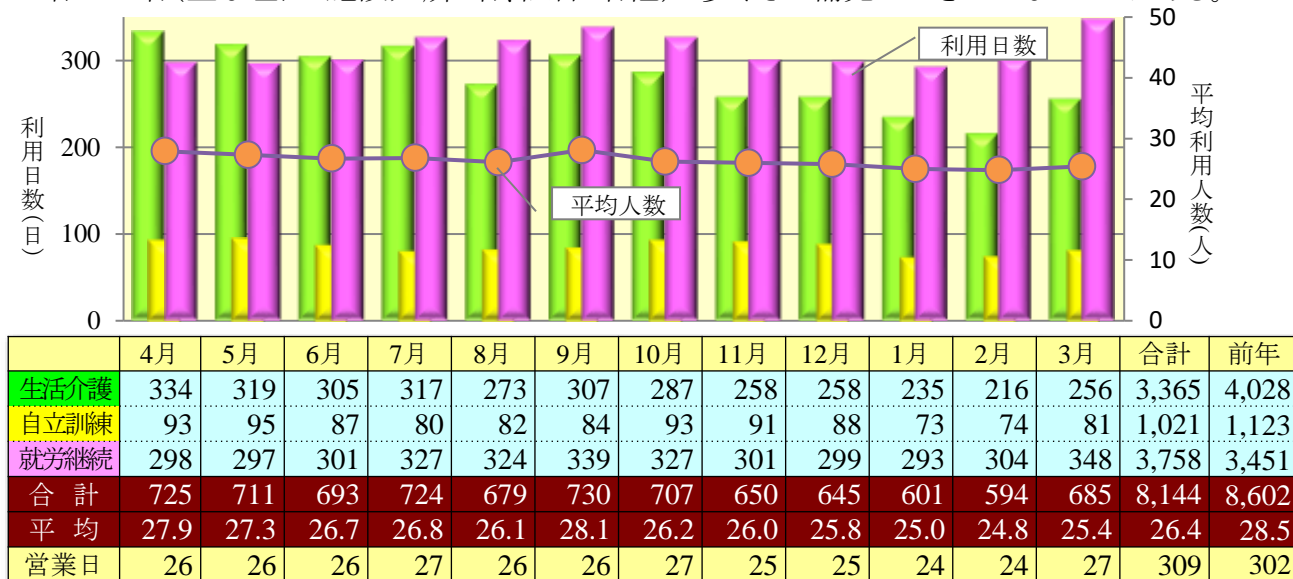
③疾患別原因:障害の原因が多岐にわたっている



	生活 介護	自立 訓練	就労 継続
脳血管障害	8	2	19
脳性麻痺	20		3
脊髄損傷	2		1
頭部外傷	2	1	1
その他	8	4	6
合計	40	7	30

(2) 利用状況

年間利用人数は8,144名で、就労B型では増えたものの、生活介護が大きく減少した。生活介護の利用減の要因は、コロナウイルスの影響による利用控えもあるが、利用中止となった退所者が11名(主な理由:施設入所4名、転居3名他)と多くその補充ができていないことにある。



(3) 利用者工賃の支給状況

コロナウイルスの影響から受注作業が激減し、実績に応じて支払う作業工賃に影響した。年度後半になっても、全体的に作業量が少ない状況が続いた。平均工賃は前年度より1,668円低い**月平均 4,057円**(前年5,725円)となった。また、時給換算においても前年の66円減の**128円**(前年191円)となった。

(4) 日中活動の状況

毎月第4土曜日に開催していた「食事のイベント」、毎週月曜日の「卓球とカラオケ」、火曜日の「手話サークル」は感染対策から中止としたことで、3事業の利用者の交流場面を作ることができなかった。

生活介護棟から訓練機器のある足柄療護園への移動を制限したことから、機能訓練を行えるように体制や環境を整備した。



生活介護棟での運動の様子

(5) 相談支援事業

相談件数は合計で52件で、地域別では小田原市在住者からの相談が22件で全体の約4割を占める。通所の相談内容は、相談支援事業者からの相談がほとんどで、入浴と機能訓練にかかわる内容が多い。

サービス利用計画作成は、全体で50名、内訳は足柄療護園入所者42名、在宅サービス利用者8名である。

生活介護相談	6件
訓練相談	4件
就労継続相談	5件
入所相談	23件
短期入所相談	14件

新規利用相談件数

7. プレアデス(生活介護・就労継続・日中一時・相談)の状況

生活介護及び就労B型の年間利用者数は、前年を下回り**12,878名**(前年13,103名)、1日平均**35.5名**(前年度36.0名)の実績となった。コロナの影響から自主的に休まれるケースやグループホーム等で発熱者がでたことにより、感染対策の観点から通所を控えていただくケースなど、利用実績に影響がみられた。

登録者は65名でスタートし年度末では**62名**(生活介護25名、就労B37)となった。生活介護利用者の障害支援区分は平均で**5.32**(前年5.31)であった。

福泉事業所の業務一本化に伴い、3名の職員が就労Bから生活介護に異動した。チャットワークのリモート機能を活用し、3事業所同時に業務の引継を行う方法を検証し、生活介護、就労B、グループホームとの連携強化をはかった。

【生活介護事業】

❖登録者は養護学校卒業生2名を迎え、その後1名減り25名となった。利用人数は前年を上回った。生産活動グループ内で当番制を導入し、決められた事だけを行うのではなく、利用者個々の活動の主体性を高める支援を実施した。また、ADL能力の高い利用者に対し、生産活動の内容の充実や納品にも積極的に係わる事で、活動意欲向上につなげた。

【就労継続支援B型事業】

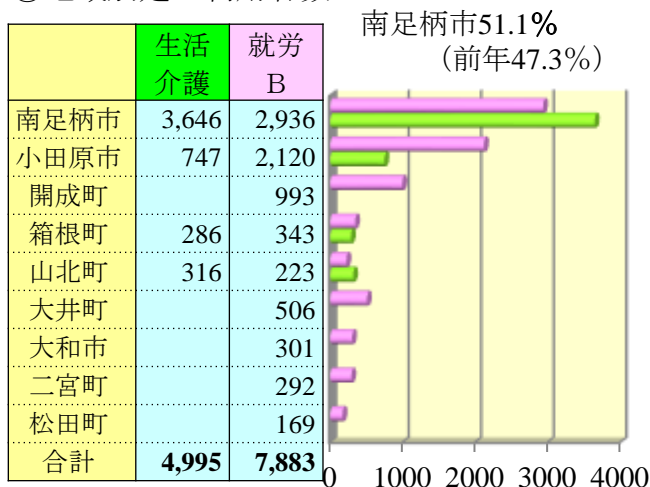
❖生活介護に移行するなど登録者は2名減り37名となった。利用人数は前年を下回った。福泉事業所の一本化に向け職員体制変更を機会に、受託先の見直や受注作業に係る業務内容の見直しを行い、効率化と生産性の向上をはかった。コロナの影響による受注作業の減少、ふくらんについては2割ほどの売上減少から、工賃見直しを余儀なくされた。

【日中一時事業】

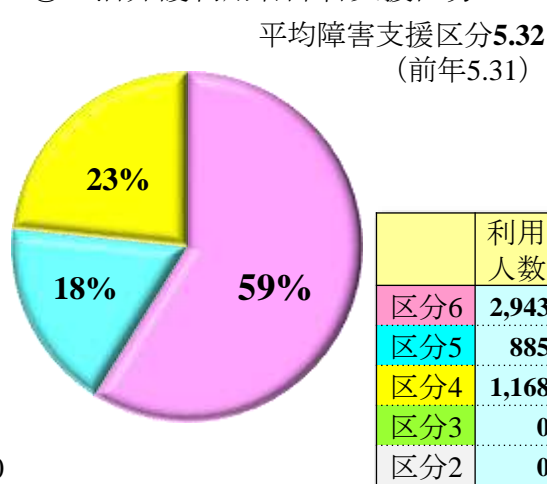
❖4月より養護学校卒業生を2名受け入れ16名の登録者に対し、昨年度を上回る2,681日(2,274日)前年のサービス提供ができた。今年度もサービス提供時間を16時から17時までの1時間とした。

(1) 利用者の状況

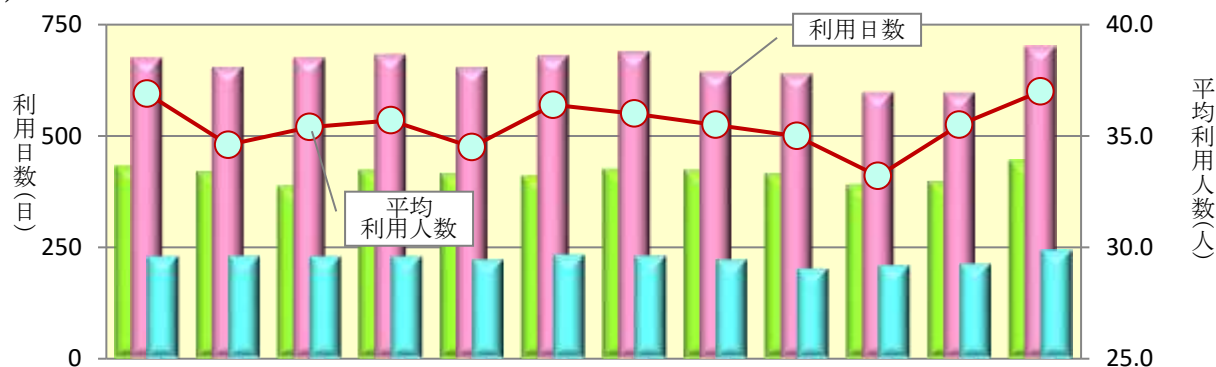
①地域別延べ利用者数



②生活介護利用者障害支援区分



(2) 利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
生活介護	433	420	388	424	416	411	426	424	417	391	399	446	4,995	4,890
就労継続	675	654	675	682	653	680	689	642	639	597	596	701	7,883	8,213
合計	1,108	1,074	1,063	1,106	1,069	1,091	1,115	1,066	1,056	988	995	1,147	12,878	13,103
平均	36.9	34.6	35.4	35.7	34.5	36.4	36.0	35.5	35.0	33.2	35.5	37.0	35.5	36.0
営業日	30	31	30	31	31	30	31	30	29/31	28/31	28	31	360/365	362/365
日中一時	228	229	228	228	221	232	230	221	201	208	212	243	2,681	2,274

(3) 利用者工賃の支給状況

コロナの影響により、受注作業が激減し、ふくらの売上も2割程度落ち込んだことから、工賃基準を見直した結果、プレアデス福泉(就労B型)の平均工賃は全体で12,856円と前年比を**2,005円**下回った。

	R2	R1
プレアデス全体	12,856	14,861
ふくらん以外	8,526	10,449
ふくらん	19,703	24,075

平均工賃実績

(4) 相談支援事業

施設利用について**14件**(前年14件)の相談があった。生活介護で養護学校経由3名、相談事業所経由8名の相談があり、1名が利用を開始し、2名が養護学校卒業後から利用開始となった。

生活介護相談	11件
就労継続相談	2件
入所・GH相談	1件
その他	0件

(5) 日中活動

生活介護では利用者主体の誕生会が定着し、利用者が率先して会に参加されるようになった。毎月の創作活動については感染防止を徹底しながら実施した。就労B型では、「コロナ感染予防について」をテーマとした利用者主体の研修会の開催と「自分発表会」を実施した。活動を通して、コロナ自粛の影響による利用者のストレス軽減に努めた。



自分発表会〔就労B〕

(6) 施設外活動

恒例のディズニー泊バス旅行や家族交流バーベキューをはじめ多くの施設外活動を中止した。生活介護では体を動かす機会として、感染リスクの低い近隣の公園への散歩や山北ダム公園での散策や紅葉見学を実施した。



紅葉見学〔生活介護〕

(7) 地域交流

感染対策からプレアデス祭は中止とした。地域自治会の夏祭りへの参加やふくらんの出張販売など、今まで行っていたすべての交流機会が中止となった。

ふくらんでは、3月にいずみ自治会の協力をいただき、各家庭に注文書を配布し、個別に配達を行う新しい取り組みを実施し、計画を上回る46件もの注文をいただいた。

生駒自治会長に対しプレアデス移設に係る説明を行った、後日、自治会役員会の報告をいただき「移設に対し歓迎する」とのコメントいただいた。

8. プレアデスホーム（共同生活援助定員32名）

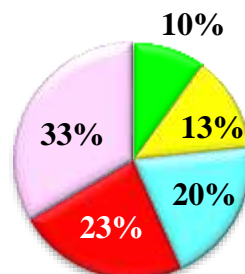
6月にいずみホームを廃止し、定員は36名から32名となり、入居利用者は1名減り30名となった。コロナの影響もあり、見学や体験利用の制限から利用者増をはかれなかった。

感染対策のガイドラインを作成し、外出・外泊自粛を求めるなど、感染者が発生しないよう随時対応を行った。現在も2ヵ月に1度、見直しを継続している。また、年間を通して行事やイベント等も延期や中止することとなった。忘年会をグループホームの敷地内で開催するなど、創意工夫で生活のサポートを行った。

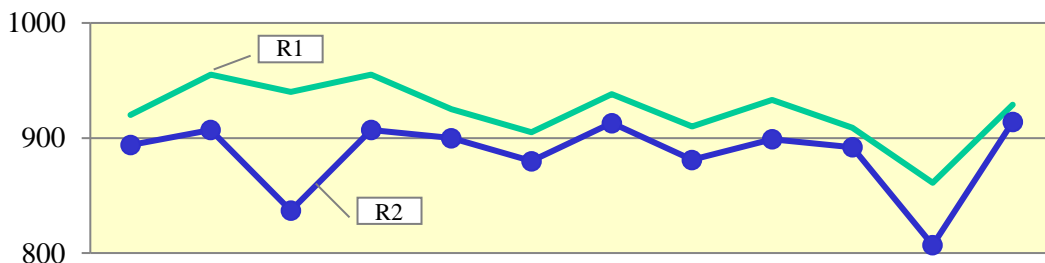
A.入所者の性別及び人数 B.障害支援区分



区分	あまつぼ			やまさき			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
6	1	2	3				1	2	3
5				3	1	4	3	1	4
4		1	1	3	2	5	3	3	6
3				7		7	7		7
2	2		2	7	1	8	9	1	10
1									



C.月別利用人数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数	894	907	837	907	900	880	913	881	899	892	807	914	10,631
入院日数	22	31	48	2	6	0	0	0	0	6	17	0	132
外泊日数	14	21	15	21	24	20	17	19	31	32	16	16	246
前年	920	955	940	955	925	905	938	910	933	909	861	929	11,080

発熱者が発生した場合には、医療機関への早期通院を実施するとともに、感染症を疑い徹底した感染対策を行い対応した。また、感染対策として、ホーム内においても、毎朝の検温、手洗い・消毒、マスク着用の他、食卓の亚克力板のパーティションの設置や他者とのディスタンスをとり、密集に至らない集団生活を送れるように、個々の利用者の新たな生活習慣への見直しを行った。

10月に諏訪野原公園に外出し体を動かした。例年開催している、**県西地区グループホーム交流会**は中止となった。

9.ふくらん販売状況

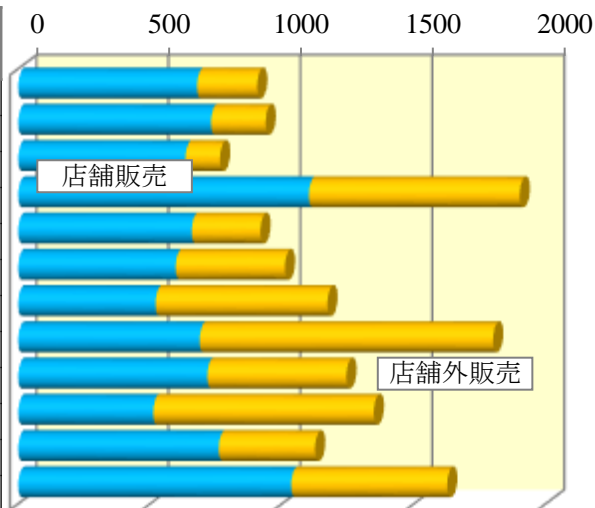
(1) 販売状況

年間の販売実績は1475万円で前年の1852万円を20%下回った。特に200件を超えるイベントや定期販売等の外販機会が30件程度に減少し、年2回の小田原ラスカへの出店は継続できたものの前年に633万円あった売上は170万円に落ち込んだ。店舗では感染対策を徹底し休まず営業を続けた結果、前年並みの売上を確保できた。販路拡大に取り組み、新たな納品先として、6月より道の駅足柄「金太郎のふるさと」が加わり、9月からは専用の冷蔵庫を設置し、年間の売上は122万円に達した。また3月よりマックスバリュー開成店に納入を開始した。

登録利用者数は13名(昨年15名)、1日平均利用者数は**7.9名**(前年7.6名)、ふくらんの平均工賃は売上看見合った工賃改定を行い、**19,703円**(前年24,075円)と減少した。

◆月別販売実績(単位:千円)

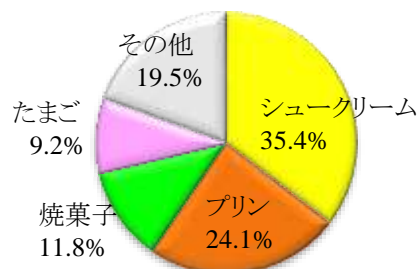
	店舗	店舗外			売上 合計	前年 売上
		小計	外販	受注等		
4月	678	228	0	228	906	1161
5月	731	207	0	207	938	1,282
6月	634	131	0	131	765	1,612
7月	1,102	799	532	267	1,901	2,244
8月	658	260	27	233	918	1,592
9月	597	414	86	328	1,011	1,322
10月	521	651	140	511	1,172	1,887
11月	688	1,112	153	959	1,800	2,071
12月	717	527	103	424	1,244	1,924
1月	512	836	542	294	1,348	843
2月	760	365	16	349	1,125	1,276
3月	1035	591	110	481	1,626	1,308
合計	8,633	6,121	1,709	4,412	14,754	18,521



◆店舗部門別販売実績(レジ集計値)(単位:千円)

部門	売上	構成比	販売数	前年売上
シュー	3,102	35.4%	15,802	2,871
プリン	2,112	24.1%	10,389	2,122
焼菓子	1,033	11.8%	4,045	1,189
たまご	804	9.2%	3,466	801
その他	1,707	19.5%	4,886	1,302

※レジ集計値なので、現金売上金額とは若干異なる



(2) 取り組み

昨年導入した電子マネー決済は新たにpaypayを加えるなどした結果、年間で124万(前年61万円)の利用となった。また、地域経済の活性化目的で発行された「南足柄市プレミアム付金太郎商品券」の利用が34万円あった。

店舗ではテイクアウト企画やシュークリームのデコレーションを自宅で楽しめる「わいわいセット」の発売などを行った。

地域企業のアマゾン小田原から社員向けに3,200個のクッキーの大口注文を受注した。

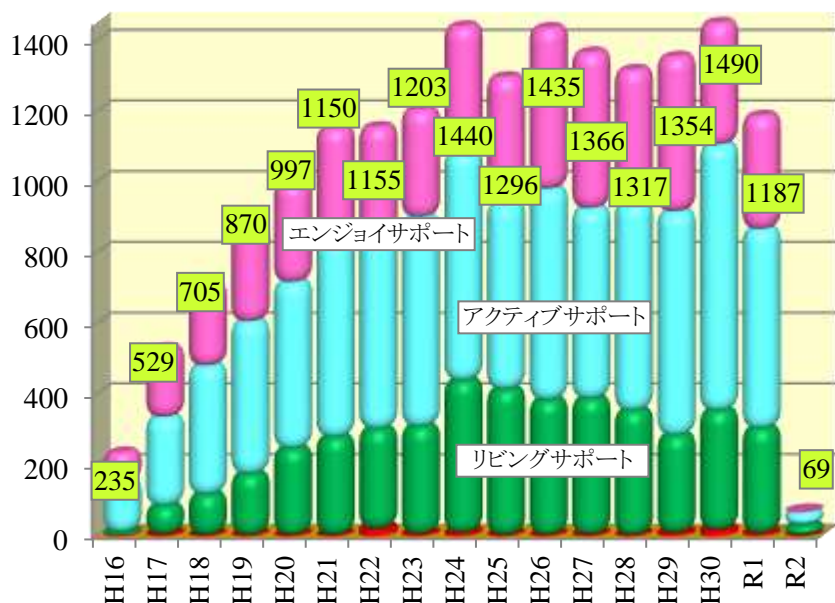


南足柄小学校2年生見学

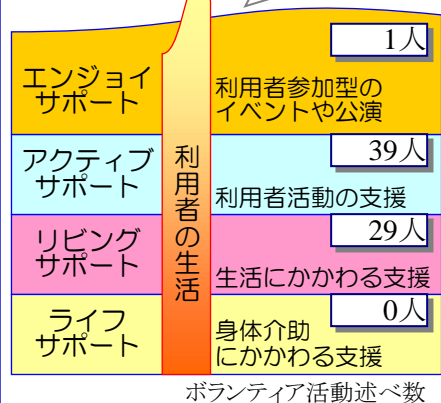
10. ボランティア活動の状況

(1) ボランティア実績

感染対策としてボランティアの受入れを中止した。緊急事態宣言を解除した一時に受入れた**69名**(前年1,187名)の活動誘致にとどまった。プレアデスにおいては受入れることができなかった。施設とボランティアをオンラインでつないだイベントを新たに試みた。



利用者の生活面から、ボランティアの活動を四つの階層に区分し、それぞれの階層ごとにボランティアの活動を誘致している。



(2) ボランティアイベント開催状況等

感染対策からボランティアの受入れ中止が続くと考えられるため、試験的な試みではあるが、オンラインを活用した「ライブ鑑賞」と「絵本タイム」を実施した。

ボランティア食事は、中止とした。



絵本タイムをリモートで実施

◆◆◆newmeを活用した取り組み◆◆◆

神奈川県の実験に協力し、遠隔操作のできるアバターロボット「newme」を1か月間借り受け、様々な取り組みを行った。

◆ライブ鑑賞 [7月9日:2階利用者15名参加]
ライブハウス[KA☆BOSS]にnewmeを持ち込、施設では映像をプロジェクターで映し出し「ぱんちょマン」のライブを鑑賞した

◆地球博物館 [7月14日:1階利用者20名参加]
生命の星地球博物館にnewmeを持ち込、施設では利用者がPCを操作して、学芸員の説明を聴きながら館内をめぐった



◆ライブ鑑賞



◆地球博物館



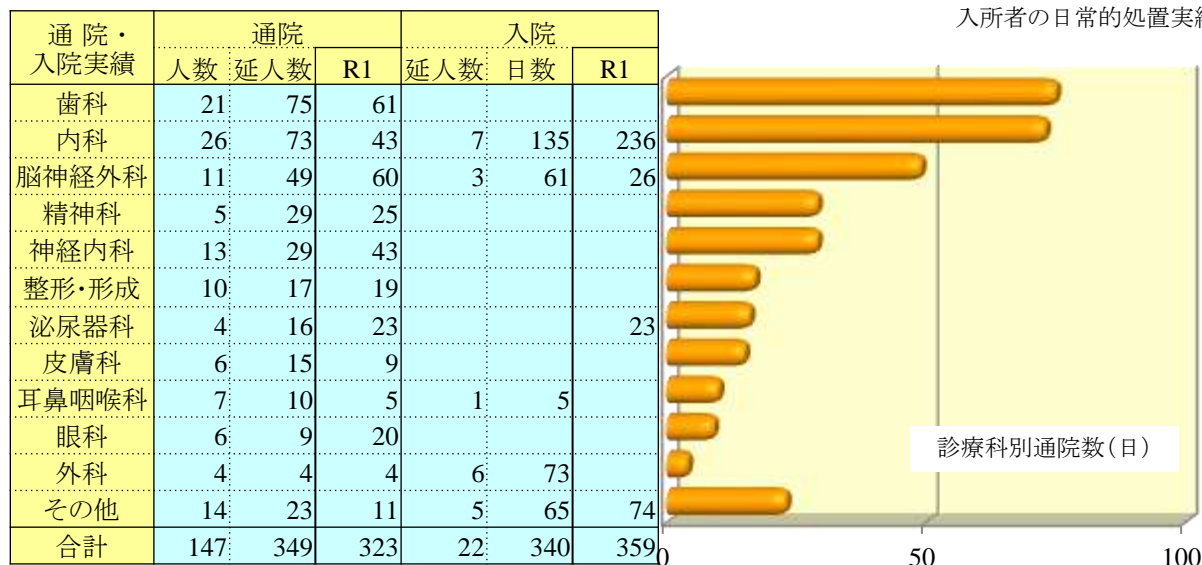
11. 健康管理の状況

(1) メディカル

年度前期はコロナウイルスの影響から提携病院への受診が難しく大学病院等に受診することが多かった。年2回の健康診断を行い病気の早期発見につなげてきたが急変されるケースもあった。通院数は年間349件(前年323件)と若干増加した。

	対象者	件数
膀胱洗浄	4	174
摘便	8	271
義眼洗浄	5	96
褥瘡	5	142
経管栄養	5	1,722
バルーン交換等	5	50
その他	吸引 / 皮膚科処置 / 胃瘻・膀胱瘻処置 / 眼科処置 / 採血 / ストマケア	

入所者の日常的処置実績



(2) リハビリ（訓練等サービス）

リハビリテーション実施計画書に基づき、個別リハビリテーションを行い、身体・認知機能の維持・向上をはかった。感染防止の観点から、換気、消毒の徹底及び密集密接を避けたプログラムを実施した。

機能訓練等

訓練の必要性に応じ、理学療法士を中心として機能維持訓練を実施した。

個別に自主訓練の方法を提案し、身体機能への自己認識の向上を促した。また、臥位や座位ポジショニングに関し、調整・提案を行った。

言語訓練

必要に応じ摂食嚥下機能の評価を行い、訓練や食形態の調整等を行った。

目的別小グループ訓練を継続して実施した。通所利用者に対しオンラインを利用した個別訓練を実施した。

	利用人数	延べ数	R1	事業別		
				入所	県西	プレ
言語訓練	46	1,423	1,484	766	657	15
機能訓練	49	1,349	1,501	846	503	
音楽療法	27	428	549	375	53	
グループセラピー	10	328	262	328		
合計		3,528	3,796	2,315	1,213	15
訪問マッサージ	37	3,263	2,885			

※訪問マッサージは、マッサージ業者と利用者個人の契約によるもの。

音楽療法（月2～3回実施）

音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などを促した。

目的別に5種の小グループを構成し、音楽の特性を生かし各機能の向上を促した。

12. 給食の状況

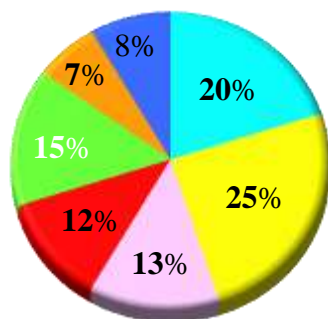
(1) 食事提供実績

厨房は、足柄療護園とプレアデスホームの2箇所稼働しており、プレアデスホームの厨房では、ホームの食事とプレアデス通所の昼食を提供している。給食管理はともに、栄養士業務も含めて日清医療食品(株)に業務委託している。合計提供食数は、特に短期入所分が減少し、106,860食であった。

	食数
朝食	31,289
昼食	43,941
夕食	31,630
合計	106,860
施設	58,581
短期入所	2,994
県西福祉C	7,862
プレアデス	11,944
ホーム	21,799
職員他	3,680

4月～3月 給食提供実績

① 食事の提供形態;入所者の常食は20%(前年26%)



入所者の食事形態

	入所	県西	プレ
常食	12	46	78
一口大	15	9	2
1cm大	8	3	10
きざみ	7	6	1
超きざみ	9	2	1
ミキサー	4	4	
経管栄養	5	4	
合計	60	74	92

3.31現在

② 栄養量

	足柄療護園	プレアデス
カロリー	1,652 k ^{カロ}	1,959 k ^{カロ}
たんぱく質	64.0 g ^{グラ}	68.7 g ^{グラ}
脂質	45.8 g ^{グラ}	45.0 g ^{グラ}
カルシウム	605m ^{グラ}	604m ^{グラ}
塩分	7.2 g ^{グラ}	7.4 g ^{グラ}

(カロリー制限食も含む)

③ 食事費用概算

給食費は、入所利用者より1日1,430円をいただいている。(短期・通所は朝400円・昼650円・夕食550円)

ひとり当たりの1日の給食にかかわる費用は委託料の値上げや増税分もあり1,984円となった。

	令和2年度	令和元年度
業務委託費	39,028 千円	38,374 千円
食材費	34,181 千円	34,218 千円
給食費合計	73,209 千円	72,592 千円
1食当	685 円	666 円
1日当	1,984 円	1,928 円

※給食にかかわる光熱費は含まず。

(2) 食のイベント

誕生日メニューやちょっと贅沢を味わう「お誕生日メニュー」やイベントによる食事提供を行った。

4月3日	お花見弁当
5月5日	かつおのたたき
6月26日	紫陽花弁当
7月7日	七夕そうめん

7月19日	吉野家牛丼
8月2日	ココイチカレー
10月28日	秋まつりメニュー
12月25日	クリスマスメニュー

1月1日	お正月メニュー
2月2日	恵方巻
3月3日	ひなまつり

(3) 給食検討会

調理師や委託業者の担当者も加わり、給食に対する要望の実現に向け検討を行っている給食検討会は、感染対策から開催を見送った。利用者、職員等からの要望は随時受付し、施設長、栄養士が情報収集を行った。

(4) 食のあり方検討会

年4回「食のあり方検討会」を開催し食形態やソフト食の推進について検討を重ねた。「食事観察依頼書(45件)」「食事観察経過評価用紙(4件)」を用いて、適切な食事形態の確保に他職種で取り組んだ。また、利用者の高齢化に対応し、栄養面のマネジメントを行った。

13. 権利擁護の状況

(1) 苦情の受付状況

苦情の申し出はなかった。

(2) K-フレンズの活動

※K-フレンズ =かながわ身体障害福祉ネットワーク
(身体障害者自らが主となる権利擁護・苦情解決ネットワーク)

感染対策から訪問件数を減らし、年5回来園いただき、利用者から**11件の相談**を受け、施設への報告のもと適切に対処した。〔足柄療護園・県西福祉センター〕

(3) KWネットの活動

※KWネット =県西地区障害者施設権利擁護ネットワーク
(県西地区で活動するオンブズマン組織)

年4回の訪問相談を実施した。利用者本人よりご家族からの相談が多く、コロナ過も後押ししたと思われるが、将来的な不安にかかわる内容が多いとのことであった。〔プレアデス〕

(4) 身体拘束ゼロに向けた取り組み

身体拘束マニュアルに沿って、ご本人ご家族と同意のうえ、実施している内容のうち、足柄療護園入所者**10名12項目**(前年12名17項目)、短期入所利用者**5名6項目**(前年5名5項目)、通所を含め**合計19項目**が身体拘束・行動制限に該当している。解除した方は**6名**であった。

拘束内容	目的	件数
ベッド柵	転落防止	8
センサー設置	外出防止	2
トイレテーブル	座位保持	1
トイレベルト	座位保持	1
胴体ベルト	転落防止	2
車いすベルト	転落防止	1
その他		4

身体拘束状況

(5) 成年後見制度等利用の推進

足柄療護園入所者58名のうち、**22名**(前年度23名)が制度を利用している。プレアデスホーム利用者30名のうち後見制度利用は**10名**となり、社協の安心サービス利用は**9名**となっている。

(6) 人権チェック調査結果

12月に職員に対して、利用者支援にかかわり自らを省みる機会として、また利用者の人権を尊重するうえで必要な心構えを共通の認識とすることを目的に『**人権チェック**』調査を実施した(回答108名)。

令和元年の調査結果と比較すると、極端な変化は見られなかったものの、介助・支援の基本である項目の評価が下がっていることが気にかかった。最も評価の低かった項目は、『利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている』という内容であり、情報共有や支援のサポートを強化する必要が明確になった。

評価の低かった項目

最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

利用者の年齢にふさわしい接し方をしている

昨年比べて評価の下がった項目

介助に入る際には、必ず声掛けを行なっている

利用者のさん付けが徹底できている

障害者差別禁止法を知っていますか？

昨年比べて評価の上がった項目

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある

同僚とはコミュニケーションがとりやすい雰囲気である

利用者へのサービス提供に関する悩みや課題について、相談できる職場環境である

14. 安全管理の状況

(1) 防災

防災計画に基づき、避難訓練・防火訓練を実施した。

福祉避難所の協定を結んでいる南足柄市より、サポート事業を活用し、プライバシーやコロナに対応できる、間仕切りテントを購入した。

月日	内容	
6月24日	総合訓練	居住棟2階センターより出火を想定した避難訓練、通報訓練、消火器を使用した消火訓練実施。
9月30日	部分訓練	管理棟2階デイルームより出火を想定した避難訓練、通報訓練。
12月23日	総合訓練	居住棟1階静養室より、出火を想定した避難訓練、通報訓練を実施。消防署員指導による救命救急、AEDの使い方講習を開催。
3月17日	部分訓練	夜間帯を想定した訓練。1階管理棟洗濯室より出火を想定した消火訓練、避難訓練、通報訓練を実施。

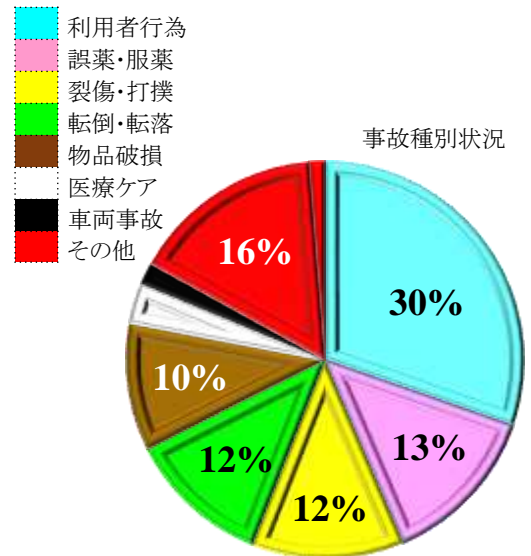
足柄療護園 避難訓練等実施実績

(2) リスクマネジメント（事故報告）

リスクマネジメント報告書による**事故件数は395件**で前年の327件を70件ほど上回った。事業所別では足柄療護園が**226件**（前年238件）で**全体の57%**（前年72%）を占めるが、プレアデスが**150件**と前年の69件を大きく上回った。内容別では、部署により違いが見られ、足柄療護園では**誤薬・服薬**が最も多く**19%**、プレアデスでは、「施設からの無断外出による所在不明」などの利用者行為によるものが**90件**で**60%**を占める。**救急車による搬送**を必要とした大きな事例（ライフガード）が**5件**（急変や食事時の窒息などによる救急車搬送）発生した。

	足柄療護園	県西福祉C	プレアデス	合計	
利用者行為	29	1	90	120	30.4%
誤薬服薬	43	5	4	52	13.2%
裂傷打撲	32	2	15	49	12.4%
転倒転落	32	4	10	46	11.6%
物品破損	36	1	4	41	10.4%
医療	12	1		13	3.3%
車両事故	1	3	3	7	1.8%
その他	37	2	23	62	15.7%
ライフガード	4		1	5	1.3%
合計	226	19	150	395	
	57.2%	4.8%	38.0%		

リスクマネジメント報告書内容



(3) インシデント(ヒヤリハット)

ヒヤットと共有書によるインシデントの件数は**1年間で252件**と前年の192件を上回った。

内訳では、車いすから落ちそうになっていたなどの**転倒/転落**が最も多く**93件**（前年66件）、薬の飲み忘れなど服薬にかかわる内容は**73件**（前年47件）、自力による移乗などの**利用者行為**にかかわる内容が**29件**（前年22件）であった。

部署別では、足柄療護園が**202件**（前年134件）と約8割を占める。

15. コミュニティ(地域交流)の状況

(1) 地域との交流

秋まつりやプレアデス祭を中止としたため、地域の方々と交流する機会を逸した。ふくらんでは、いずみ自治会と連携し、注文販売をおこなった。

(2) 利用者講演

コロナウイルスの影響で、学校が休校やオンライン授業になり、また、感染対策から見学の受入れも中止したことで講演機会が減ったが、リモートで年5回の講演を行った。

リモートでの講演が可能となったため、出向けなかった、国際医療福祉大学成田校のような遠方での講演も実現でき、今後のあり方を検討する機会となった。



月 日	依頼元	対象者	参加者
2020.9.3	神奈川県立大井高校	社会福祉援助技術コース2年生	15
2020.10.1	北里大学医療衛生学部	言語聴覚療法学専攻1年生	30
2020.11.26	彰栄リハビリテーション専門学校	作業療法学科1年生	20
2021.2.4	国際医療福祉大学 成田	言語聴覚学科3年生	18
2021.2.25	国際医療福祉大学 成田	言語聴覚学科3年生	18

主な利用者講演実績(講演先一覧)

リモートでの利用者講演

16. 広報の状況

(1) 広報誌『やまぶき』の発行

広報委員会において広報誌「やまぶき」の発行を行った。コロナウイルスの影響で4月の発行予定が7月にずれ込み、発行予定を変更して、例年通り3回の発行を行った。主に利用者・ご家族、地域自治会、関連業者、行政、関連機関等へ約500部印刷し配布した。

通巻	発行日	主な内容
72号	7月1日	令和2年度事業計画 各事業所ニュース 他
73号	9月30日	令和元年度事業報告 アバターロボット報告 他
74号	1月31日	新年のあいさつ 各事業所ニュース 他

やまぶき発行実績

(2) ホームページ&SNS

県西福祉会のホームページは、定期的な活動を中心に更新を行った。また、県西福祉会、足柄療護園、県西福祉センターのフェイスブックページを活動やイベントを中心に随時更新した。ふくらんについては専用のホームページやフェイスブック(“いいね!”は1,289)、インスタグラム(フォロワー1,136人)を活用し、認知力向上につとめた。

17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他

(1) 実習生・研修生の受け入れ

足柄療護園では言語聴覚士の実習を受入れた。

プレアデスでは、小田原短大4名、鎌倉女子短大2名の保育実習を受入れた。また、足柄高校の教員の施設体験学習を受入れた。

	内容	依頼先	受入数	実習期間
足	ST実習	北里大学	1	8/24～9/19(4週間)
ブ	施設体習	足柄高校	1	7/27～7/31(2日間)
ブ	保育実習	鎌倉女子短期大学	2	8/3～8/16(11日間)
ブ	保育実習	小田原短期大学	4	8/17～8/28(10日間)

実習受入実績

(2) 自治会(三竹会)活動

施設入所者自ら自治会を組織し活動を実施してきたが、平成22年度より役員選出が滞り、実質活動休止状態となっている。

(3) ご家族との交流等

足柄療護園全入所者のご家族を対象に足柄療護園家族会を組織している。会費納入者は48家族。5月の総会は書面決議で実施し、恒例の親睦パーティーは中止した。また、ブルーレイプレイヤーと高性能のプロジェクターを寄贈いただいた。(令和2元年度会長:稲本浩美氏)

プレアデスでは、恒例のご家族合同バーベキューは中止した。



プロジェクター等の寄贈物品

(4) 施設見学

感染対策から施設見学・視察の受け入れは中止した。



井戸ポンプの設置

18. 施設整備

① 給水設備工事

国庫補助の施設整備補助金を活用して、新たな井戸の掘削と十トンの受水槽の増設を行った。自家発電装置と連動し、災害時でも給水が止まることのないような設計とした。

② 送迎車両整備

神奈川県共同募金会より助成いただき、「足柄療護園」「県西福祉センター」「プレアデス」に1台ずつの送迎車両を整備した。



送迎車両の購入

③ マッスルスーツ

腰痛を防止し、安全で身体負担が少ない介助を行うことを目的に、ロボット等導入支援事業補助金を活用し「マッスルスーツ」を整備した。



令和2年度 部門別重点実施事項 実施報告

足柄療護園	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	委員会の再編を行い、わくいき委員会（わくわく委員会・いきいき委員会）の活動内容を整理し、より個別支援計画との連動をすすめる。	3	わくわくといきいき委員会の統合を行い、わくいき委員会として活動を行った。感染対策から、活動方法の変更や中止するなどし対応をすすめた。
魅力的な就労支援サービスの確立			
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援計画書に基づいた、個々の支援をより強化し、施設生活におけるその人らしさを実現できる生活につなげていく。	4	個別支援計画に基づき、コロナ禍における可能な限りの個々の支援に取り組んだ。外出などの支援はできなかった。
災害時の安心の確保	各種災害に対応した、マニュアルの更新及び施設が災害後も継続的に施設運営を行っていくために現実的なBCPについて見直しを行う。	2	感染対策に係る対応方法の確立や周知を適宜行った。感染が疑われるケースに対応できるよう備品の確保やカウンの着脱など対応方法の周知を行った。
組織体制の強化	各フロア会議等の業務の効率的な業務の見直し、職員の負担軽減のための対策を行う。さくさく委員会を中心に外国人労働者の受入準備を行う。	4	技能実習生の受入れに向け、すでに受入れを行っている施設の見学や現地語でのマニュアルの作成などを行った。
権利擁護意識の向上	権利擁護委員会による、職員に対する利用者一人一人への権利意識の向上と成年後見人制度のさらなる利用促進を行う。	3	委員会を中心に権利擁護として身体拘束の解除や成年後見制度への促しを行った。身体拘束については短時間での解除など取り組むことができた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	組織体制の強化とともにリーダー・サブリーダーのリーダーシップの向上を目指し、職員全体のスキルアップに向けて取り組みを行う。	3	個別支援の会議等ではサブリーダーに責任を持たせ組織強化を目指した。お互いにフォローし合いチームで支援を行えるよう職員の意識向上をはかった。
地域サービスの充実	圏域内外の事業所等と連携をはかり、多くの方々が短期入所を利用できるよう対応する。医療ケア等の対応のため、喀痰吸引「特定」対応職員の確保を行う。	3	行政・他事業所と連携をはかり、緊急での短期入所の受入などの対応を行った。利用率が90%を超える月もあったが、利用控えもあり年間では76%にとどまった。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	あんしんネットについて行政と連携をはかり今後のあり方を検討する。短期入所利用の65歳以上の継続利用について検討を行う。	2	あんしんネットについては継続での対応となっており、感染対策を徹底しながら受入れることはできた。
障害者福祉の啓発	施設視察の受入れは継続的に積極的に実施する。大学・専門学校・高校生への主張授業や体験の受入れを行う。	2	コロナの影響で視察や学生の実習は行われなかった。ただし、リモートを活用しての利用者講演会などを行うことができた。
教育機関及び地域との連携強化	日中活動を中心にボランティアの継続的な受入れを行い、地域や教育機関との連携強化をはかる。	2	ボランティア活動や学生の実習を行うことができなかった。リモートを活用したボランティア活動を試みた。

泉西福祉センター	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	月間プログラムの強化。新たなグループ活動の模索。土曜営業の強化。	2	感染対策で訓練や活動の制限を行った。生活介護では創作活動の充実をはかった。土曜営業については食のイベントを中止したこともあり利用減となった。
魅力的な就労支援サービスの確立	作業内容を見直し、効率的で安定した作業の提供につとめる。工賃基準を見直し平均工賃の引き上げをはかる。	2	コロナの影響で受注が大きく減少し、平均工賃が下がった。年度後半でようやく安定した仕事を受注できるようになってきた。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援に沿って個々の活動を明確化し強化す。利用者講演活動に意欲的に取り組めるように支援する。	4	言語訓練をリモートで行うなど個々のニーズを拾い上げ意欲的に取り組んだ。利用者講演もリモートで行うなど引き続き支援した。
災害時の安心の確保	想定される災害を再検討し、災害対策マニュアルを整備する。	2	想定される災害について再検討を行ったが、災害対策マニュアルを整備するまでには至らなかった。
組織体制の強化	各事業の業務見直し改善をはかり、体制を強化する。各事業の特性を活かしたサービスを提供する。	2	感染対策に係る作業が増える中で、いかに効率的に業務が行えるのか、その都度話し合い業務改善を行った。
権利擁護意識の向上	利用者・家族への成年後見制度の利用をすすめる。権利擁護研修への参加し利用者接遇意識を高め人権意識の向上をはかる。	3	成年後見制度の促進ははかれなかった。権利擁護研修へ参加し接遇意識を高め人権意識の向上をはかった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	研修に積極的に参加できるような体制を整え、専門知識・マネジメント力を強化する。各職員の役割を強化し支援員の能力向上を行う。	2	研修にできるだけ参加できるような体制を整えたが出席率があまり高くなかった。
地域サービスの充実	地域のニーズを把握し、より利用しやすいサービスを提供する。新規利用者受入れを強化し年間利用者延べ人数9700名を目指す。	2	目標達成に至らなかった。特に生活介護の退所者が多く新規利用者が増えなかった。年度後半にポスターと募集案内を関係機関に配布し募集をはかった。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	地域の適正・ニーズにそったサービスを提供する。通所での介護保険サービスである「共生型サービス」実施に向けた検討を行う。	3	入浴や訓練のニーズは高く、ポスターにて募集をかけた。「共生型サービス」については今後も検討していく。
障害者福祉の啓発	施設視察の受入れ、啓発イベントへの積極的な参加。養護学校・特別支援級の体験受入れを積極的に行う。	3	感染対策を行いつつ、利用に係る見学を受入れた。養護学校の実習は、話し合いを重ね可能な限り受入れを行った。
教育機関及び地域との連携強化	積極的な体験実習受入れを行う。地域の関係機関と情報交換を行いニーズに合わせた連携強化をはかる。	4	関係機関とはリモート会議に積極的に参加し連携を強化した。教育機関とはリモートを活用し利用者講演を行った。

令和2年度 部門別重点実施事項 実施報告

プレアデス	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	生活介護の重度障害者の個々の能力を生かして参加できる生産活動や自主生産品の検討を行う。	4	各利用者のアセスメントを見直し、作業能力が向上した利用者向けに新たなリサイクル作業の提供を実施した。
魅力的な就労支援サービスの確立	工賃支給の仕組みを見直し、能力に応じた段階的な工賃となるよう検討を行う。工賃向上に努める。	2	能力給導入に向けた検討を行い、原案の作成を行ったが、コロナの影響により収入が減少し、平均工賃は約2,000円の減少となった。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	行事、イベント実施に向け、準備段階から利用者と一緒に取り組むことで、主体性と達成感の充実につなげていく。	4	活動やイベントの際に、準備や片付け、司会進行、挨拶など、役割分担することで、利用者主体性を発揮できるように支援した。
災害時の安心の確保	プレアデス各事業所での災害防災品および備蓄品等の整備に向けた検討を行う。	3	災害備蓄品の現状把握を実施、使用期限を超過している物や経年劣化している物について、必要備蓄品の確保を行っていくこととした。
組織体制の強化	プレアデス事業所間で職員が効率的に応援支援をできるように、職員の配置等の改善と見直しを行う。	4	今まで事業所ごとで個々に実施していた申し送りや、チャットワークを活用し3事業所合同での引継ぎ方法を確立し、情報の遅延や連携ミスの減少につなげた。
権利擁護意識の向上	グループスーパービジョンを活用した研修会を2回開催し、職員間での権利意識向上につなげる。	4	全事業所職員合同会議を実施、「虐待と権利擁護」をテーマに事業所ごとの関わり方、価値観の違いを共通認識した。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	プレアデス全セクションの支援員・世話人合同の研修会を企画実施していく。	4	あおぞらプランの再確認と自身の支援を振り返るためのグループワークを中心とした研修会を実施した。常勤職員に対し個別支援計画の研修を実施した。
地域サービスの充実	地域障害児の重度化と、卒業後の受入先確保困難状況にともなう生活介護事業の在り方について検討を行う。 年間利用者延べ人数13800名を目指す。	2	生活事業所の定員増に向けた体制の検討を開始した。利用日数を見直し空いた利用日を活用し養護学校卒業生の受入れ拡大を行ったが、コロナの影響もあり目標数は届かなかった。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	送迎サービスの見直し及び送迎ルート効率化の検証を行い、効率的な運営を実施する。	3	送迎体制の見直しを行い、就労B利用者を中心に公共交通機関での通所に切り替え、新たに久野地区に送迎ルートを伸ばした。
障害者福祉の啓発	地域教育機関からの学習実習・見学受入先を広げ、地域での障害福祉啓発につとめる。	3	例年の様な地域への障害福祉啓発活動は行えなかった。保育実習については例年並みの人数を受入れた。
教育機関及び地域との連携強化	圏域の医療・行政・福祉事業者と連携をはかり、障害者の地域定着支援を支えられる環境整備・検討を行う。	3	通所施設の利用継続が難しくなった方や地域における支援困難ケースを他事業所と連携し、体験を行いながら利用につなげた。

プレアデスホーム	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	外出、通院、余暇支援など、個々の能力に応じたグループホームにおいての生活を個別支援と組み合わせ、生活向上を検討していく。	3	個別支援計画に沿って外出や買物訓練を行い、単独外出につながるよう支援したが、コロナの影響もあり、地域や時間を限定するなど積極的に外出は行えなかった。
魅力的な就労支援サービスの確立	就労定着に向け、日常の様子から本人の悩み、相談等に応じたサポート体制を確立し、就労先、事業所先との連携により、定着強化する。	3	就労定着に向け、企業、移行支援事業所、就労B事業所等と連携強化してきた。勤務日の縮小や出勤時間の変更など短時間労働となるケースがあった。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	グループホーム内において、個々の意向や特徴を生かした役割を検討し、個々が主体的に生活できるよう生活支援を検討する。	3	清掃や雨戸閉めや掲示板の確認など、共有場所を中心に個々の意向や特徴を主体的に取り組めるよう役割を決め、自主的に取り組めるよう支援した。
災害時の安心の確保	各グループホームの地域性に即した火災、地震時などの災害時の対策や避難訓練の見直しを実施し、災害時の安心の確保に努める。	4	火災避難訓練と地震避難訓練を消防署のアドバイスのもと実施した。地震時の初動から避難までの具体的な行動を学びながら訓練を行った。
組織体制の強化	GH専従職員と世話人との情報共有強化のため、会議内容の検討を行う。また、利用者の特性に応じた世話人配置転換も検討する。	4	毎月、世話人会議を実施し、必要に応じ議題に特化したカンファレンスを実施した。世話人の経験年数等も含め配置転換も行った。
権利擁護意識の向上	研修等を通じ、虐待に対する理解を深めるとともに虐待防止を徹底する。利用者支援のあり方について会議等で情報共有する。	4	金銭や財産管理等について不安視されるケースについて話し合いを行い、後見人制度利用促進をはかった。また日当金銭管理サービスなどにつなげた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	世話人を対象に、利用者の障害特性を学習するなど、世話人会議等の議題にあげ、知識向上をはかる。	3	世話人会議を中心に議題を上げ話し合い、意見交換や知識向上をはかった。世話人含め、プレアデス職員を対象に「意思決定支援」の研修を行った。
地域サービスの充実	地域生活実現のため、近隣住民や店舗等、日常的に利用者が利用している場所との連携を図れるような資源としての関係性を深めていく。	2	近隣住民や店舗等との連携強化をはかる計画であったが、コロナの影響もあり、積極的に接触をすることができなかった。今後の課題とする。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	世話人や生活支援員の配置、送迎体制等を見直す。また通院の支援や日中支援の充実など、利用者の個別支援の在り方を見直す。	3	いずみホーム撤廃を機に、生活支援員の配置強化と送迎の見直しを行った。専従職員を中心に、支援の対応強化をはかった。
障害者福祉の啓発	見学等を実施することで、グループホームのサービス内容について理解を深めていく。	2	コロナの影響から、積極的に見学会や説明会を行うことができず、利用相談については電話対応のみとなった。
教育機関及び地域との連携強化	教育機関、養護学校の体験実習や地域のボランティア、見学などを通じ、障害者のグループホームでの生活の理解を深める。	2	体験実習や地域ボランティア等の見学は実施に至らなかった。今後の課題とする。